

月刊福祉

8
AUGUST
Monthly
Welfare
2016

特集

地域で支える、
地域包括支援体制



研究室探訪

28



今回の訪問先

北星学園大学
社会福祉学部
福祉計画学科
岡田 直人ゼミ

文=杉本 有紀・吉田 直人・佐々木 真菜・
寺尾 玲香・北西 文歌・伊藤 沙恵
(福祉計画学科4年生)

その地域にあるモノをアイディア勝負でおいしい活動にする。「地域福祉活動はチャージャーづくり！」がキャッチフレーズの、北星学園大学岡田直人先生おくだなおとのゼミ(以下、岡田ゼミ)を紹介します。

軸となる3つのキーワード

岡田ゼミには「負担は少なく」「楽しく」「勉強」という3つのキーワードがあります。これは、地域福祉を勉強する岡田ゼミならではのものです。

地域福祉では住民主体が重要です。継続した住民活動を促すには「負担は少ない」ものでなければなりません。そして、活動を行うなら全員が「楽しめる」ものでなければいけません。こうした地域福祉活動のポイントを踏まえ、ゼミとして「勉強」の要素を取り入れていく。これが岡田ゼミの方針で

す。

そして、地域福祉活動の主体が住民であるように、岡田ゼミの主体は学生です。私たちはゼミのすすめ方や企画などを自ら考え、行っています。地域福祉活動に参加する住民の立場と、企画を運営する実施主体としての両方の立場を、このゼミを通して学んでいます。

ゼミ生がつくり出す学びの場

岡田ゼミではほかに、社会人として必要な「企画力」を育てていけるように、前述した3つのキーワードを忘れず、一人ひとりがイベントを企画し、その運営者となります。その企画には、親睦を深める交流会、グループディスカッションといった、ふだんとは異なる「学びの場」を提供するなど、イベントの種類は自由で多種多様なものとなります。また、地域福



社を学ぶ土台として、岡村重夫おかもらしげの著書『社会福祉原論』^{※1}と『地域福祉論』^{※2}を2年かけて読みます。理解を深めるため章ごとに音読後、担当者が要約を発表、という一連の流れで学習をすすめています。

地域福祉を学ぶ課外活動

不定期で行われる課外活動も、岡田ゼミの特徴です。2015（平成27）年は「マツサン」^{よいち}で有名になった北海道余市町を訪れ、地元の高校生とともにワインぶどう農園の仕事を手伝ったり、障害者施設の利用者の方々とトマトの収穫や調理を行ったりするなど、農業を通して福祉の必要性を学ぶ機会がありました。

また、学外での講演会に参加するなど、学内の講義だけでは学べないことにも常に積極的に取り組んでいます。

引き継がれる○○○○○

岡田ゼミでは、大阪出身の岡田先生にお好み焼きのつくり方を教えていただき、ゼミ生で協力してつくる活動があります。これは、お好み焼きづくりを活用して、そこから地域づくりを担う人材を輩出していくため、代々引き継がれている活動です。基本の材料のほかは何を使うのかなど、毎回違った案を出し合いながら行うことで、楽しむと同時に考える力も身につけることができました。

またこの活動を通して、3・4年生合同での交流会も行っています。上級生が培ってきた企画力を次の世代に引き継いでいくことが、ゼミの活性につながっていると感じています。

注

※1 全国社会福祉協議会、1997年
※2 光生館、2009年



岡田 直人先生

